

容器包装アンケートの結果について

今回は、本会の容器包装メーカーを中心に構成している容器包装研究会が実施した「介護に使用する食品の容器包装に関する調査」の結果を一部お伝えいたします。

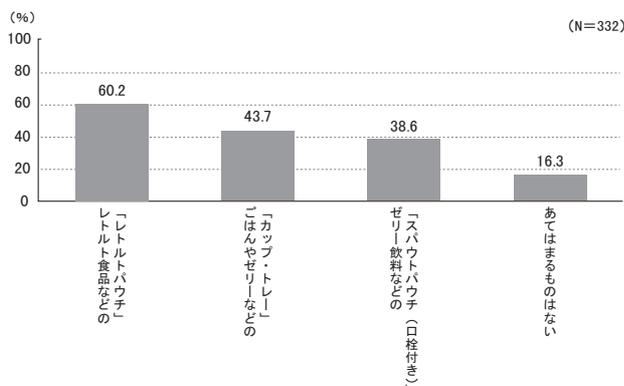
この調査は、インターネットを利用し、レトルトパウチ、カップ・トレイ、スパウトパウチの使い勝手について、現在自宅で介護を行っている一般家庭に調査を行い、300名（世帯）より回答を受けたものです（調査時期・2019年11月）。

まず、介護者（回答者）属性をみると、男性74%、女性26%と男性からの回答比率が高くなりました（今回は性別による構成比率を50%ずつなど特に設けなかったことによります）。年齢層を見ると、40歳代29%、50歳代24%、30歳代20%、60歳代15%、20歳代9%、70歳代以上5%の順に高い結果となりました（小数点以下は四捨五入）。介護者は40歳代を中心に、30～60歳代に多い傾向となりましたが、これはインターネット利用環境に関係があるかもしれません。被介護者の年齢層は、80歳代40%、70歳代23%、90歳代20%でした。

設問では、普段利用している介護食品の上記容器形態についての「不便」を「加温時」、「開封時」、「供食時」、「廃棄時」について聞いています。

Q 普段利用している介護食品の容器形態（複数回答）

まず、この結果では、レトルトパウチ60%、カップ・トレイ 44%、スパウトパウチ39%となり、レトルトパウチの利用が最も多い結果でした。



普段利用している介護食品の容器形態

Q 開封時の不便さ（複数回答）

次に、この設問への回答を一例として取り上げますが、以下の結果となりました。

- レトルトパウチ：開け口を手で切りにくい41%、被介護者が開けられない32%、開け口がわかりにくい28%。
- カップ・トレイ：開け口を手で開けにくい41%、被介護者が開けられない29%、開け口がわかりにくい22%。
- スパウトパウチ：被介護者が開けられない29%、自分の握力では開けられない28%、開封時に中身をこぼしてしまうことがある23%。

今回のアンケートは介護食品に使用される容器包装に関するネガティブな部分を中心に調査を行いました。容器包装研究会ではこれら結果を参考に、今後誰にでも使いやすい容器包装のあり方について検討・研究を重ねて参ります。

【会議、催事等の予定】

5月22日（金）介護食品の食べ方勉強会（日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック）

5月27日（水）第5回容器包装研究会（本会会議室）

5月28日（木）第8回業務用WG（本会会議室）

【UDF 商品登録状況（1,987品目・3月末現在）】

	区分1	区分2	区分3	区分4	とろみ調整	合計
乾燥食品	0	11	4	0	95	110
冷凍食品	285	251	678	21	0	1,235
常温食品	177	120	200	144	1	642
合計	462	382	882	165	96	1,987

【会員の異動（3月）】

新規加入会員1社：(株)吉野家

計87社（3月末現在）。

◎日本介護食品協議会では会員企業を募集しています。協議会とユニバーサルデザインフードについては事務局までご連絡ください。

事務局：東京都千代田区神田東松下町10-2

翔和神田ビル3階

TEL 03-5256-4804

FAX 03-5256-4805

<https://www.udf.jp/>